

図書館だより 第1号



2021.6.1 狛江高校図書館



「図書館だより」第1号です。新しく受け入れた本を中心に話題作・おススメ本・学習支援や部活支援・進路関係図書などを順次紹介していきます。読みたい本をセレクトする際の参考にしてください。

◆ **知識のアーカイブ**
図書館の積極的な利用を！！

○ **図書の貸出** 生徒：5冊・2週間 教職員：必要な冊数・1か月

6月のカレンダー(変更になる場合があります。) ※グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
		6/1 教育実習 (5/26~6/15)	2	3	4	5
6	7 授業公開 (始)	8	9	10	11 授業公開 (終)	12
13	14	15 教育実習(終)	16	17	18	19 土曜授業 午後閉館
20	21	22	23	24	25	26 土曜授業 午後閉館
27	28	29	30	7/1 期末考査 (~7/6)	2 期末考査	3

狛江高校 OB

『生きる力 一引き算の縁と足し算の縁』 笠井 信輔 (KADOKAWA)

本校卒業生、フジTVアナウンサーからフリーに転身。直後、悪性リンパ腫であることが判明。絶望のなか、家族や友人からの励まし、医療関係者とのかかわりを通して、病気で失った引き算を、足し算に変えていく日々をつづる一冊。



《話題の図書の中から 6月末に入ります！！》

『クララとお日さま』 カズオ・イシグロ【著】 土屋 政雄【訳】 (早川書房)

人工知能を搭載したロボットのクララは、病弱の少女ジョージと出会い、二人は友情を育む。愛とは、知性とは、家族とは、生きることを意味を問いかける作品。ノーベル文学賞受賞、カズオ・イシグロ氏の最新作。



『コリシの言葉』 石原 孝 (さくら舎)

2019年ラグビーワールドカップで優勝。食べることに事欠く厳しい環境で育ちながら南アフリカに栄冠をもたらした黒人初の主将コリシ。「一つにまとまれば何だって成し遂げられる。」ラガーマンとしての姿に迫る一冊。



新着雑誌

《定期購読の雑誌・新聞一覧》



新聞コーナー

雑誌	刊行頻度	発行所
Newton	月刊	ニュートンプレス
イングリッシュジャーナル	月刊	アルク
Number ※新規受入	隔週	文藝春秋
ニュースがわかる	月刊	毎日新聞出版
きょうの料理 ※新規受入	月刊	NHK 出版
ニューズウィーク(日本版)	週刊	CCCメディアハウス
GIGS	月刊	シンコミュージック・エンタテインメント
non-no	月刊	集英社
ダ・ヴィンチ	月刊	メディアファクトリー
BRUTUS	月2回	マガジンハウス
キネマ旬報 ※新規受入	月2回	キネマ旬報社

新聞	刊行頻度	発行所
朝日新聞	朝・夕刊	朝日新聞社
読売新聞	朝・夕刊	読売新聞社
毎日新聞	朝・夕刊	毎日新聞社
日本経済新聞	朝・夕刊	日本経済新聞社
産経新聞	朝刊	産業経済新聞社
東京新聞	朝・夕刊	中日新聞東京本社
The Japan Times (The New York Times International Edition を含む) ※新規受入	朝刊	ジャパンタイムズ

学習支援図書の中から 6月末受入

『新明解国語辞典 第8版』 山田 忠雄 他【編】(三省堂)

ことばの語釈と用例、新語を含め収録項目を増補。項目数79,000。9万を超えるアクセント表示。「かぞえ方」欄が拡充され、付録に「数字の読み方」が新設。



『人がつなぐ源氏物語』 伊井 春樹 (朝日新聞出版)

『源氏物語』は、原作本が失われてしまいが、人々が写本を作り続けたことにより、物語本文は今に伝えられている。なぜ藤原定家の「青表紙本」が決定版となったのか。物語にかかわった人々を描く。



《図書館の司書より ごあいさつ》

五味です。

1年生のみなさんとは4月のオリエンテーションでお会いしました。現在、図書の貸出冊数も増えております。2・3年生も含め、高校生活のうちにぜひ読書量を増やしてください。図書・雑誌・新聞等たくさん資料があります。みなさんの利用をお待ちしております。

みつなぐ光永です。

皆さん！図書館がどこにあるか知っていますか？2階、職員室の向かい側です。明るくて広い館内を是非歩いてみてください。いい1冊との出会いが待っているかもしれませんよ。お探しの本があればお手伝いします。いつでも声をかけてくださいね。

さいしよ税所です。

動物も植物も！無論、本も大好きな私です。狛高生の爽やかで明るい挨拶に、勤務日が待ち遠しい2年目を迎えました。アオハルの今、生涯の大切な一冊に出会えたら本当にステキです！どうか図書館に来て下さい。皆さんのレファレンスを心待ちしています。

とみくら富倉です。

クイズ番組東大王や有名大学先生の推し本など、どうして流行っているのかな？自分の知らないことをズバツと言ってくれて、「へっ」って思うからですね。次は皆さんが知りたいと思う事を是非図書室から探って「へっ」を増やして欲しい。きっと違う世界が広がっていますよ。

《2021年 本屋大賞ノミネート作品の中から》 特集展示コーナー

大賞受賞

『52ヘルツのクジラたち』 町田 そのこ (中央公論新社)

52ヘルツのクジラとは、他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一番孤独なクジラ。自分の人生を家族に奪われてきた女性と、母に虐待されてきた少年。孤独のなかで生活してきた二人が出会い、新たな物語が生まれる。



候補作

『犬がいた季節』 伊吹 有喜 (双葉社)

夏の終わり高校に迷い込んだ一匹の白い子犬、「コーシロー」と名付けられ、生徒とともに学校生活を送ることに。昭和から平成、そして令和へと移り変わる時代を背景にコーシローが見つめた高校生の青春を描いた作品。



翻訳小説部門 大賞受賞

『ザリガニの鳴くところ』 ディーリア・オーエンズ【著】 友廣 純【訳】 (早川書房)

ノース・カロライナ州の湿地で男の死体が発見され人々は一人の少女に疑いをかける。彼女は、家族に見捨てられ湿地の小屋で暮らし、「湿地の少女」と呼ばれていた。自然のなかで生きる少女の成長と不審死事件が交わり、意外な結末へとストーリーが展開する。全米500万部突破のベストセラー。

